

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報  
(4月9日～4月15日の情報)

**1. 行政による放射性物質検査**

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。4月9日から4月15日までに5414件の検査がおこなわれました。基準を超えたものは4件でした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

**2. 検査結果について**

**(1)検査結果の概要**

表1. 検査結果の抜粋(4月9日～4月15日に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島県	農産物	100	0	—	栃木県	農産物	116	0	—
	畜産物	256	0	—		畜産物	491	0	—
	水産物	198	2	ヤマメ		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	7	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	2	1	イノシシ		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	0	0	—
宮城県	農産物	0	0	—	群馬県	農産物	18	1	タラの芽
	畜産物	192	0	—		畜産物	523	0	—
	水産物	6	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	0	0	—
茨城県	農産物	11	0	—	千葉県	農産物	24	0	—
	畜産物	616	0	—		畜産物	163	0	—
	水産物	0	0	—		水産物	14	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	0	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2017年 9月10日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月17日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月24日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 1日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 8日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年10月15日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月22日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月29日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月 5日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月12日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月19日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月26日	98.9%	1.1%	0.0%

2017年12月 3日	97.6%	2.4%	0.0%
2017年12月10日	99.0%	1.0%	0.0%
2017年12月17日	99.6%	0.4%	0.0%
2017年12月24日	99.1%	0.9%	0.0%
2018年 1月21日	99.5%	0.5%	0.0%
2018年 1月28日	99.4%	0.6%	0.0%
2018年 2月 4日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 2月12日	97.9%	2.1%	0.0%
2018年 2月18日	100%	0.0%	0.0%
2018年 2月25日	98.9%	1.1%	0.0%
2018年 3月 4日	99.3%	0.7%	0.0%
2018年 3月11日	98.1%	1.9%	0.0%
2018年 3月18日	98.6%	1.4%	0.0%
2018年 3月25日	98.3%	1.7%	0.0%
2018年 4月 1日	99.6%	0.4%	0.0%
2018年 4月 8日	98.5%	1.5%	0.0%
2018年 4月15日	98.9%	1.1%	0.0%
<b>2017年4月平均</b>	<b>97.3%</b>	<b>2.7%</b>	<b>0.0%</b>

基準を超えた沿岸魚はみつきりませんでした。これで147週連続(約3年)となります。福島県の175検体の水産物(海洋)が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介類はいわき市のカナガシラ(13 ベクレル/キログラム)相馬市のカナガシラ(19 ベクレル/キログラム)でした。

## (2)検査について基準を超えたものについて

①福島県で捕獲された野生鳥獣肉について基準を超える放射性セシウムが検出された旨公表されました。

ア. 福島県須賀川市:イノシシ(800 ベクレル/キログラム)

福島県で捕獲されたイノシシについては、すでに出荷制限措置がとられているため、市中には出回っていません。

②福島県で捕獲されたイワナについて基準を超える放射性セシウムが検出された旨公表されました。

ア. 福島県桑折町産ケ沢川(阿武隈川水系):ヤマメ(140 ベクレル/キログラム)

イ. 福島県福島市小川(阿武隈川水系):ヤマメ(140 ベクレル/キログラム)

福島県の阿武隈川水系で捕獲されたイワナについては、すでに出荷制限措置がとられているため、市中には出回っていません。

③群馬県で収穫されたタラの芽について基準を超える放射性物質が他府県のモニタリング検査で判明しました。

ア. 栃木県吉岡町:タラの芽(200 ベクレル/キログラム)

県では、同町で改めて野生のタラノメを採取し、モニタリング検査を実施したところ、基準値を超える放射性セシウムが検出されました。吉岡町及び関係者に対して、出荷自粛を要請するとともに、自家消費に関する注意喚起を行いました。

## (3)京都の空間線量(4月9日~4月15日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.037~0.076 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.045~0.090 マイクロシーベルト/1時間となっています。4月15日のデータが異常に高い数値(16.9メートルが0.076、1メートルが0.090)を示しましたが、理由は不明です。4月16日は通常に戻っていました。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.11 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.14 マイクロシーベルト/1時間)となっており、原発事故以降、最低値になっています。2012年の同時期が0.8 マイクロシーベルト/1時間となっており、今はこの時の10分の1

くらいになってきました。しかし0.1 マイクロシーベルトを下回るところまで来たのは今回が初めてです。過去の平均は0.038~0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、倍くらいの値となっています。

### 3. 関連情報

#### (1)海産物3年連続下回る 昨年度放射性物質基準値(福島民報社より)

福島県が2017(平成29)年度に実施した県内の農林水産物の放射性物質モニタリング検査で、海産物は3年連続で全てが食品衛生法の基準値(1キロ当たり100ベクレル)を下回った。野菜・果実は栽培管理されている品目は5年連続で全て基準値以下となった。県が9日発表した。

2017年度は農林水産物1万9545点を調べた。水産物のうち、海産物は8496点を調べ、全て基準値を下回った。県は時間の経過とともに海中の放射性セシウムが低減したのに加え、魚介類の世代交代が進んだとみている。

野菜は2230点全てが食品衛生法の基準値を下回った。果実は631点を調べ、630点が基準値以下だった。クリ1点が基準値を超えたが、放射性物質の低減対策など栽培管理されていなかった。生産者が将来的な出荷を検討しているため、県が検査対象に加えた。生産者は2012年10月に販売を中止しており、市場には流通させていない。

一方、基準値を超えたのは野生の川魚や山菜などを中心に全体の0.05%に当たる計10点だった。2016年より4点増えたが、県環境保全農業課は「多少の変動はあるが、栽培管理をしている農林水産物を中心に、放射性物質の量はおおむね減少している」としている。

以上